

# 少年センターだより

発行



日野町少年センター

日野町河原1-1

TEL0748-53-1325

<https://syonen.jp>

日野町少年センター



## 子どもの自己肯定感を膨らませます！

日野町子育て・教育相談センター 臨床心理士 赤尾 宗一

### ◆自己肯定感が十分膨らんでいない子どもたち

人が育っていくときに必要なことは「他人と共にありながら、自分が自分であって大丈夫」だと感じられる自己肯定感というものがある。しかし、最近の子どもたちは、比較と競争・評価のまなざしの中で「こうあらねばならない」という呪縛の中で苦しんでいるように思います。本来は、子どもの思いをゆっくり丁寧に聞き取ってくれる親や先生がいて、そういう体験をもとに、「あ～自分がこう感じていいんだ」「そういう自分であっていいのだ」と子どもが思えることで、この自己肯定感は膨らんでいくのです。そして親や先生から「あなたは、それでどうしたいんだい？」と、子どもに対して聞いてあげることが重要となります。特に不快な感情ほど、「あ～あなたは、そういうことで悲しく思ったのね」「悔しかったのね」というように不快に感じたことを承認してもらえる体験は、自己肯定感を高めると共に、感情調節の能力を高めることにつながっていきます。この感情調節能力は「嫌だけど、もう少し頑張ってみよう」「怖いけど、挑戦してみよう」といった、力がついていくのです。逆に、子どもが「悲しいよ～」と落ち込んでいるときに、「こんなことで、悲しんでいてどうするの！弱い子ね」といったように、不快感情を否定するようなかかわりは、子どもを傷つけ、誰にも辛いことを言わず、自分一人で対処しようとする子になったり、急に切れたり、感情調節が難しい子になったりしていく可能性があります。



### ◆不登校の子どもの苦しみ

不登校の子どもは、何らかの傷つきや困りが幾重にも重なって、これ以上学校に行っていたら、自分は壊れてしまうという心と体の反応から、安心安全な家庭にいるということを選んだ結果が不登校となっているように思います。あるいは、様々な葛藤を抱えながら、自分を見つめなおす時間として不登校を選択した子どもも朝、なかなか起きられない、身体不調が出てくる、昼夜逆転、ゲームばかりの生活、着替えもしないなど、一見すると、好きなことをして過ごしているように見える生活が続きます。この姿に親や先生が子どもを必要以上に叱責したり、泣き脅したりといったことが起こります。実は、このような生活には、子ども側からすると、大きな意味があるようです。ある子どもは、「夜になると、また明日がやってきて、親を悲しませる」

(次ページへ続く)

「朝が来るのがつらい」「私が不登校になって、親が辛い顔をしている。それを見るのが辛い」「やっぱり私はダメな子だって思う」から夜中に起きていたり、ゲームや好きなアニメで、気を紛らわせたりしているということをお話してくれました。つまり、もともと不登校にならざるえない傷つきや困りがあつたうえに、不登校になった後にも、親のことや先生との関係で二重、三重に傷つき、困ることが起きているようです。

### ◆子どもが元気になるとき

不登校の子どもが自立していくためには、まずは、子どもが、家の中で十分に心身ともに、安心・安全感を感じられ、少しずつ元気に家で過ごせるようになっていくことが必要です。しかし、先に述べたように、多くの子どもは、自分が不登校という選択をしたことに負い目や自己否定感をさらに強めたりしています。元気になるには、親や先生から不登校を責められず、子どもが好きな活動を親子で一緒にしたり、少し行けそうなところに、家族と一緒に外出したりすることがいいようです。こうして子どもに少し元気が出てくると、家族のために、何かを作ってくれたり、手伝ってくれたりすることが出てきます。こうして家で自分を責めずに過ごせるようになってから、子どもは、本来の不登校の要因となったことに向き合い、考えていくことができるようです。

### ◆保護者も元気になるように

ここまで述べたことを見ると、親や先生、周囲の大人の対応がポイントになってくることは明らかです。しかし、この応援をするには、親や先生など、大人も「こうあらねばならない」の呪縛から解放されることが必要になります。また、大人も不快な感情をしっかりと誰かを相手に語り、聞いてもらえる体験が必要になります。そして、いったい「この子は何に傷つき困ってきたのだろう」と思いを巡らせてみたり、親として、自分は「どんな子育てをしたいのだろうか」と振り返ってみたりすることが重要だと思います。あるお母さんは「この子が生きていくだけで十分」と「前向きに開き直った」後から、不思議と子どもが再登校をしたと教えてくださいました。私たち大人も、お互いに思いを語り合い、分かち合うそんな関係を大切にしたいものです。

### ◆「かまへんかまへん大丈夫」

学校に戻ることができた要因には、「信頼できる友達や先生が誘ってくれた」が多いようです。子どもは人とのつながりの中で傷つくことが多いのですが、回復を助けるのは、治そうとする人ではなく、理解してくれる人とのつながりだということです。これは私たち大人の社会も同様だと思います。そのためには、日本社会の中で大切なことは、家族、学校、社会のなかで、安心して思いを聞いてもらえ、分かち合えること、失敗や間違いを許容される安心安全な関係なのではないでしょうか。「かまへんかまへん大丈夫」この言葉が日野の中で広まりますように。



# 少年を「使い捨て」にする「闇バイト」

最近、目先の利益を手に入れるため、少年が「闇バイト」に安易に応募し、特殊詐欺や強盗等の重大な犯罪に加担してしまうことが大きな社会問題となっています。現在、社会的に「闇バイト」という用語が使用されていますが、これは単なるアルバイトなどではなく犯罪です。「闇バイト」の募集は、犯罪実行役の募集にほかなりません。その実態は、犯行グループが切り捨て要員の実行役を手広く募集するものであり、私たちは、これに関わることで少年にどのような危険が及ぶかについて、少年に伝え続けていく必要があります。ここで少年たちが「闇バイト」に応募し、犯罪行為に加担するまでの最も多くみられる基本的な流れを紹介します。

## 応募から検挙されるまで

- ① 自らSNSで「高額報酬」等を検索・応募



- ② グループから連絡が入り、以降、匿名性の高いアプリでやり取り



- ③ 犯行グループに言われるまま個人情報を送信



- ④ 犯行行為への加担を拒否すれば犯行グループが個人情報をもとに脅迫



- ⑤ 犯行グループの末端として犯罪行為に加担

犯行グループによる脅迫等の結果、少年たちは犯罪行為に加担せざるを得ない状況となり、「受け子」などの役割を繰り返した結果、必ず検挙されることとなります。脅し等により、逮捕されるまで使い続けられることが特徴です。



検挙された少年たちの大半が「遊ぶための金が欲しい」といった理由で、「闇バイト」に応募し、犯罪に加担させられています。目先の遊興費を得るため、「1回だけなら大丈夫」「嫌になったらすぐに辞めたらいい」といった安易な考えで応募した結果、取り返しのつかない結果を招いています。

このように「闇バイト」には、絶対手を出してはいけません。もし、「怪しいバイトに応募してしまった」場合などで不安に思った時は、警察等に相談することで犯罪への加担を未然に防ぐことができます。

私たち大人が少年たちに「闇バイト」の恐ろしさを十分に伝え、一人でも犯罪に巻き込まれないようにすることが大切です。



## 少年補導委員会 日野中学校訪問

少年補導委員会では、年3回日野中学校に応援メツツセージを届けています。子どもたちの健全育成を図るために心に響く標語を考え、毎回生徒昇降口に掲示していただいています。3月は、「最後までよく頑張ったね！次のステージに踏み出そう」です。

また、中学校を訪問したときに、校長先生と懇談をさせていただき、現在の中学校の様子や子どもたちの現状についてお話をいただき、意見交換をさせていただいています。日頃、中学校にあまり関わることはないですが、この機会に子ども理解に有意義な時間を持つことができるとも勉強になっています。

毎週火曜日には少年補導委員も輪番で中学校の朝のあいさつ運動に参加していますが、子どもたちの気持ちよい朝のあいさつに励まされています。



### つぶやき

少子高齢化で私の集落には小学生が1人しかいません。そんな中、日野町のホームページで幼児教育保育施設再編整備計画（案）を拝見しました。町内の幼稚園や保育所をこども園として一部統合する整備案です。時代の流れで致し方ないこととは言え、地元から今の幼稚園の名称が無くなることは非常に寂しいです。

後、何十年もしないうちに学校教育が想像もつかない状況になるかもしれません。そんな中、「朝のあいさつ運動」で登校して来る子ども達を見ていると、笑顔であいさつする子ども、また、うつ向いたままの子どもなど人それぞれです。でも校内に入ると一転大きな掛け声を交わし、はしゃいで見せる子どもたち。いつの時代も学校が大切な居場所なのでしょう。

小学校の存続が気になります。

日野町少年補導委員 平岡 喜志夫

## ひとりで悩まないで まずは相談を！

少年センターでは、少年に関する悩みや心配ごとの相談を行っています。お気軽にお越しください。秘密は厳守します。

○来所相談 ○電話相談 ○メール相談

○来所・電話：月～金 9:00～16:30 ○日野町勤労福祉会館 2階

電話：0748-53-1325 E-mail：[hino@syonen.jp](mailto:hino@syonen.jp) HP：<http://syonen.jp/>

日野町少年センター

